【獅子頭（ししがしら）づくり】

山本幸太郎（やまもとこうたろう）

【現 住 所】御坊市
【生　　年】明治36年

職　　歴

家業の家具製造に従事するかたわら祖父から受け継がれた山幾天神ならびに御坊獅子の製作技術を習得し、現在まで50余年祭礼獅子頭の製作を続けてきた。

業績の概要

御坊獅子は祭礼獅子頭として、その優美な姿は名声高く、県内は言うに及ばず全国各地からの注文が多いが、8～10月の期間でないと張子（はりこ）のため乾燥が思うにまかせず、そのうえ手づくりによるため、日高地方からの注文に限って、年に6～7個製作している。

獅子頭は良質の和紙を糊で固め、うるしで仕上げた赤色、黒色の二種類であり、昭和初年、初代山本幾右衛門氏が技術を習得し、2代目亀太郎氏を経て3代目幸太郎氏が伝承しているが、早く4代目に引き継ぐべく努力している。

日高地方の祭礼は数多いが、代表的なものは由良町横浜の獅子舞と美山村（現：日高川町）の寒川祭（獅子舞）であり、ともに和歌山県無形文化財に指定されている。それぞれ、その雄壮さと妙技は、氏の製作した重量の軽い獅子頭でないと演じにくいと言われる。

初代から今日まで、採算を度外視して作り続け、伝統の祭を支えてきた裏方的存在の氏の力は大きい。